

安保破棄ニュース

No. 556
2023. 8. 10

安保破棄・諸要求貫徹大阪実行委員会

〒543-0104 大阪市天王寺区玉造元町一七一三
TEL 〇六一六七六一三三三三
FAX 〇六一六七六一三八三六
●Eメール ampo-osk@abeam.ocn.ne.jp
●ホームページ <http://www.ampo-osk.jp>

大軍拡の最前線 沖縄の現状をつかもう



普天間基地

嘉手納基地

7月20日(木)～23日(日)、近畿安保(大阪・兵庫・京都・滋賀・和歌山・奈良)としての沖縄連帯ツアーを実施しました。今回のツアーは、昨年暮れに岸田自公政権によって閣議決定された安保3文書改定に沿って、大軍拡が進められる中で、その最前線となり、もはや新しい戦前と言われる南西諸島・沖縄の現状を掴むため、直接現地に赴いて直に見聞きし、感じることを通して平和を考えようと企画しました。

そのため、ツアー中に5組7名の方々とお会いし、それぞれの皆さんから時間をかけてお話を伺い、2時間以上の時間をかけて懇談することに焦点を当てました。

東村・高江

伊佐真次さん(日本共産党町会議員)と懇談

高江では、2007年7月から米軍のヘリパッド建設が始められ、2016年7月からは全国から派遣された機動隊が、抗議して座り込む人々を力づくで排除して工事を強行し、12月には全て完成したとして、北部訓練場の内、約4000haを返還する式典が行われました。ところが、欠陥工事だったためにその後も補修工事が続き、ようやく2020年7月末に完了となりました。



豊かな自然の中にある米軍北部訓練所の説明をする伊佐議員

23 宣伝行動

7月の安保破棄大阪実行委員会23定例宣伝行動を7月24日の昼12時からいつもと同じく大阪市庁舎近くの淀屋橋で行いました。今回で通算416回目の23行動となります。ビラ配布「大軍拡と大増税に反対する」請願署名協力を呼びかけ、横断幕、プラスターなどをもつてのスタンディング宣伝、弁士による訴えを7人の参加で行いました。

弁士は、平和を守り戦争に反対する戦没者遺族の会、日本共産党、憲法会議、からそれぞれ出していただきました。

日米安保条約がいかに害悪となっているのか、岸田政権が進めている、大軍拡、大増税がアメリカの意向を優先したものであることなどを道行く人たちに訴えかけました

8月の23宣伝行動は、8月23日に行います。



しかし、そこから新たな危険が住民を苦しめています。私たちが訪れた前日の夜にもオスプレイの離着陸訓練が行われるなど、自然豊かな小さな高江の村を取り囲むように造られた6か所のヘリパッドでは、昼夜を問わず米軍による超低空飛行(60mどころではありません)を伴う危険な訓練が頻繁に行われています。2021年7月には、ユネスコによって沖縄島北部(やんばる)が奄美大島や徳之島などと共に世界自然遺産に登録されました。しかし、その「残すべき大切な世界の宝」の上空であっても米軍機はお構いなしに飛び回り、それどころか、米軍北部訓練場との間にはフェンスが有るわけでもないので、武装訓練中の米兵が世界自然遺産の地域に入っているも誰も分かりません。高江ではいま、世界自然遺産の中に米軍基地・訓練場が有るなどという「不条理」を世界中の人々に知らせ、「基地反対と言うだけではなく、やんばるを世界遺産に相応しい所にしよう」「世界遺産なのだから、全面返還は当たり前と思ってもらえるようにしよう」という運動を高めようと話し合い、未だ日本にはない自然史博物館を沖縄・やんばるに建設する夢を実現しようとがんばっています。

名護・辺野古

稲嶺 進さん（前市長・オール沖縄会議共同代表）

上野郁子さん（島ぐるみ会議名護、名護平和委員会）

瀬長和男さん（沖縄県統一連）

名護市辺野古では、無法・無

謀な米軍基地建設が強行され続けており、辺野古漁港側での埋め立て工事は7月中に完了したようです。

しかしこれは、全体の計画からすれば、わずか15%ほどでしかありません。

しかも、当初の計画では半年としていた辺野古側の埋め立てだけで4年半以上を要しており、予算的にも2021年度までに既に当初予算の3500億円を使い、もしこのペースで大浦湾側の埋め立てができたとしても、さらに27年以上かかることとなります。

実際には、軟弱地盤の問題などによる設計変更は玉城知事が不承認としており、これ以上工事を進めることはできません。

ところが、防衛省は自らが2020年に県に出した設計変更申請において、「二期の短縮」のためとして、辺野古側の埋め立て区域に大浦湾側用の土砂を仮置きすることを記しておきながら、今度は、2013年に当時の仲井真知事が承認した埋め立て承認申請に含まれる工事として可能だと、ここでも勝手な解釈をして7月20日に入札を始めています。

では、そもそも埋め立てに必要とする土砂自身をどう調達するか。



キャンプシュワブゲート前での抗議行動

防衛省は、沖縄県の外来生物対策条例によって県外から調達することが難しいため、設計変更申請において、県内の土砂によって埋め立てを行うとし、その多くを本島南部から調達するつもりでしたが、南部には、今でも多くの戦没者の遺骨がねむっており、「戦争の犠牲者や県民を冒瀆する、ありえない判断だ」と、厳しい批判が広がっています。

しかも、大浦湾の地盤改良にはさらに約350万m³の海砂が必要とされていますが、この量は、現在県全体の工事に使われている海砂の4年分にもなるため、まったく現実的になり得ない計画です。

それでもなおこの工事が続けられ、県内の市長選挙などでオール沖縄の候補が勝てない状況が続く背景には、防衛協会や商工会議所、青年会議所などが防衛局発注工事で大きな経済的影響力を持ち、辺野古関連工事では落札率が95%を超えるなどによって、彼ら「国防」族と平和産業の間に大きな「格差」が生み出されていることがあります。

前沖縄県知事の翁長さんが「基地が沖縄経済発展の最大の阻害要因」と言われましたが、この基地とは自衛隊の基地も意味しており、土地使用料などによっても、基地があるが故の「県民内格差」が生み出されていることを解明することが求められています。

いま大阪においても自衛隊の「強靱化計画」が進められ、基地・弾薬庫など施設の強靱化と共に、自衛隊員の増強を図るために自衛隊への名簿提供を自治体に迫る動きが強まっている背景にも、この防衛協会などの存在が有ると思われる。

私たち安保破棄大阪実行委員会は、今回の沖縄連帯ツアーで得た貴重な情報を活かし、平和を願う全ての人々と協力して活動します。ともにがんばりましょう。



埋め立て作業が強行される辺野古の海

諸団体の取り組み、当面の予定など

8月

- 16日(水) 大阪安保常任幹事会 10:00～
- 22日(火) 近畿安保合同会議 14:00～
- 23日(水) 大阪安保23 宣伝行動 12:00～ 淀屋橋

9月

- 20日(水) 大阪安保常任幹事会 10:00～
- 22日(金) 大阪安保23 宣伝行動 12:00～ 淀屋橋

10月

- 2日(月) 「10.2in 東京 戦争する国は許さない 沖縄と連帯する集い」 18:00～ 文京シビック・小ホール



沖縄平和祈念 平和の礎